

# Weekly Bulletin 2020-2021



RI会長  
ホルガー・クナーク



ロータリーは  
機会の扉を開く

静岡東ロータリークラブ

会長/相原雄治 幹事/長島秀親

事務局/静岡市葵区追手町2-12 静岡安藤ハザマビル5F TEL054-254-5611

例会場/ホテルアソシア静岡 例会日/毎週 木曜日 12:30~13:30

<http://www.shizuoka-east-rc.jp>



会長  
相原雄治



第2970回例会 令和 3年 1月 28日 (木)

- 《司会》長島秀親君 《合唱》手に手つないで  
静岡東ロータリー
- 《ソングリーダー》 近江 陽子 君
- 《ゲスト》 静岡経済研究所常務理事 恒友 仁 様
- 《ビジター》 無し
- 《会長挨拶要旨》 相原雄治会長

まず急なお知らせですが、小室会員がご栄転され、退会されることになりました。新任地での活躍をお祈り申し上げます。2月にご後任の方がお越しになられるそうです。この後ご挨拶を頂きます。

次にゲストのご紹介をさせていただきます。本日はゲスト卓話として、静岡経済研究所恒友 仁 (つねとも ひとし) 常務理事にお越し頂いております。榛葉会員からご紹介をいただきました。テーマは「アフターコロナの静岡経済を展望する」ということで、今まさにタイムリーなテーマとなっております。静岡経済研究所のHPでは、「融市場を中心に経験に基づいた解り易い情報提供を心掛けております。」ということで、非常に当クラブにとって有意義な卓話になろうかと思えます。限られた時間ではありますが、恒友様、本日はよろしくお願い致します。

《退会挨拶》小室会員

私事ですが、退会挨拶をさせていただきます。26日付けです。昨年1月28日に着任して1年間での異動に私自身驚いております。前々任、前任の任期が短かったので、私は落ち着いてやりますというのが嘘になってしまいました。昨年2月早々入会してコロナで休会が多く、初めて出席したのは6月18日でした。活動したのは10月のエンドポリオ街頭募金だけでしたが、通常例会の中で皆様に良くして頂きました。後任としては、2月に落合という静岡松坂屋出身の店長が着任します。小生は13年振りに大阪に戻り、初任地であ

る心齋橋店に17年振りに戻ります。短い間でしたが、ありがとうございました。

《ゲスト卓話》 静岡経済研究所 常務理事  
恒友 仁 (つねとも ひとし) 様



テーマ 「アフターコロナの静岡経済を展望する」

紹介にあずかりました静岡経済研究所の恒友です。2年半前に静岡経済研究所に着任しましたが、それまでは銀行で四半世紀以上金融市場で株や為替とか国債を売買して利益を得るディーリングという仕事をして参りました。25年間東京とイギリス、香港で仕事をし、そういう知識が静岡経済研究所にも必要だということに参ったということでございます。

## 1. 2021年の経済環境の整理~日本全体からの視点

○コロナが与えた日本経済への影響

(2020年4月-6月期GDP)

昨年8月発表 ⇒ ※コロナで戦後最大の下げ  
「実質GDPの減少幅が大きかった四半期」

2020/4-6月	※▲28.1%	新型コロナ
2009/1-3月	▲17.8%	リーマン危機
1974/1-3月	▲13.1%	石油危機
2008/10-12月	▲9.4%	リーマン危機
2012/4-6月	▲7.5%	消費税8%に

○国内GDPから見えること (県内経済への影響)

国内のGDP 2020/4-6月期前年同期比は▲9.9%であるが、静岡県は▲17.7%。全国平均よりもコロナの影響は大きく、また国内の個人消費の割合は50数%だが、

静岡県もほぼ同じで個人消費をコロナが止めてしまった。

次に、国内で輸出が▲18.5%ということだが、静岡県はGDPの40%が製造業（国内は20%）であり減少したインバウンドもサービス輸出であることから影響は大きい。

○世界および主要国・地域の経済成長率（IMF見通し）

火曜日（26日）夜に公表。世界の2021年の経済成長率は昨年10月に比べて良くなっている。ワクチンの開発が進んで経済の立ち直りが早くなるというのがIMFの見立て。

ポイントは2つ。1つは中国で、2020年も中国だけがプラスを維持した。リーマンショック同様コロナショックも中国が牽引するのではないか。もう一つは日本で、昨年度は▲5.1%の成長率だったが、今年は3.1%のプラスに転じて、来年は2.4%のプラスの推定。ただ他の国に比べると、少し見劣りする。

○日米中の名目GDP推移（米ドル・ベース）

日本は2000年から2020年の20年間に成長率は1.0倍で変わっていない。それに対して米国は名目GDPは2.0倍、中国に至っては12.3倍に成長した。2028年にはアメリカを抜くという話さえある。

○日本の潜在成長率

潜在成長率とは、日本の経済が持てる力を発揮した場合に計算される経済成長率（資本投入寄与度+労働投入寄与度+全要素生産性の寄与度）だが、それが日本は今足元でマイナスになってしまった。バブルの頃は資本投入が大きくて経済成長を牽引していた。その後バブルが弾けてリーマンショックになり、最近持ち直してきたが低位に推移。労働投入も減少傾向。生産性の向上は横ばいのままであった。今後の日本および静岡県の経済の鍵を握るのはこの生産性向上にある。

## 2. 静岡県内世帯の消費動向

（静岡経済研究所アンケート調査に見る実態）

○世帯収入の減少と家計支出の引き締め姿勢鮮明

アンケートによれば、11月次点で県内の33%の方が、収入が減り、家計支出も切り詰めている。

○充実を図った費目と節約を図った費目

減らした費目のトップは旅行・レジャー、外食、趣味・娯楽費ということで、新しい消費様式の中で暮らしは変化している。静岡でも全国と同様。ただコロナで自制強いられている中で消費者が消費に向かうマグマを溜めている。

○給付金の使い道と生活レベルの満足度

去年一人10万円配布された給付金を貯金した方が33~34%居る。給付金支給の意図と違ってくるかと思うが、将来不安による。しかしグラフを見ると、収入は減っているが生活レベルの満足度は上がっている。生活に新たな価値観を見つけており、家族で一緒に過ごす時間の価値観もある。新

しい生活基準で消費に対してどう取り組むか。

## 3. 静岡県の企業経営者の見通し

（静岡経済研究所アンケート調査に見る実態）

○2021年の景気（2020年との比較）

53.6%の経営者が、2021年は景気が良くなると推測。20.8%はやや悪くなると慎重に見ている。

○経営上、コロナ影響がどの程度の期間続くか。

2021年中は影響が続く、という経営者が大勢。

○2021年度的主要な経営課題は

1. 合理化・コスト削減の徹底
2. IT化の推進（デジタル対応）
3. 新分野・新規事業への進出

○今後、静岡県にとって重要となる産業施策

1. 医療、健康分野の振興
2. 次世代自動車産業の振興
3. 産業観光の振興

人々の生活の在り方を変えるような分野に期待。

○パンデミックがもたらす経済環境の変化

現在の世界は100年に一度の変革期

・人類は常にパンデミックと戦ってきた歴史

・パンデミックの前後で全く違う世界が実現

・それまでに起こりかけてきた変化を一気に加速する

⇒今また大きな流れの中にある。

○（ご参考）「丑はつまずき」株式相場格言

丑はつまずきという、株式相場の格言がありますが、つまずきというのは、今年は株がどこかで調整が入るかもしれないということ。丑年は、岩戸景気、石油ショック、プラザ合意、消費税、プリウス誕生等、経済・環境の節目の年でした。今後経済や環境の流れの中で、いかに静岡県経済がコロナに立ち向かっていくか。足元の変化を認識して、次にしたら良いことは何なのかということを考える必要がある。株とか為替は得意分野ですので、ご相談いただければ説明します。静岡経済研究所は30数名専門の연구원がおりますので、何なりとってください。ご清聴ありがとうございました。

《スマイル報告》

小室 孝裕 君

ロータリアンとしては、わずか半年間という短い間でしたが、お世話になりありがとうございました。お礼を込めてスマイルします。

榛葉 英二 君

静岡経済研究所の恒友常務理事様の卓話に感謝すると共に、一日も早くコロナが終息することを願いスマイルします。

（会報作成 長谷川 泰）